

TCSグループ、2024年秋に13社統合へ 「情報社会の明日」実現への一手

1971年の創業以来、総合エンジニアリング企業として成長を遂げてきたTCSグループ。その中核事業であるITソリューション事業を担う13社が、2024年10月に統合されると発表された。ITサービスプロバイダーとして、社会課題解決にいつそう力強くまい進していく構えだ。統合をけん引するTCSホールディングスの担当者に、経緯と狙い、目指すべき企業像を聞いた。

TCSグループの創業者である高山允伯氏が、1971年に東京コンピュータサービス株式会社（現TCSホールディングス株式会社）を起こしたときの社員数はわずかに7人。しかし強気の採用戦略で成長を続け、コンピュータ産業の黎明期でありながら、ソフトウェア開発事業に目をつけて事業の拡大にまい進。現在の、あらゆる分野のソフトウェア開発を行う企業グループとしての足場を築いていった。「創業者は完全なるコントローラータイプと言いましょか、根性とアイデアで続々と事業を拡大させる、非常にパワフルな人でしたね。とにかく社員を増やし、スケールメリットを生かして仕事を受注するというのが当時の方針。すごい勢いで売り上げも伸びていきました」と取締役の田村氏は当時を振り返る。

同社の最初の転機となったのは1999年。ソフトウェア開発事業の成長だけでなく、多角的な企業グループへの拡大を目指してM&A戦略へとかじを切っていく。「社会情勢の変化に柔軟に対応できるように、収益の柱を分散させるという考えもあったのでしょ。ソフトとハードのバランスを見ながら、1年に1社ほどのペースでグループ会社が増えていきました」と語るのは下山氏。

その結果、TCSグループは電子機器製造業や商社など多様な業界にまたがり、



TCSホールディングス
株式会社
取締役
田村浩一氏
Koichi Tamura

社員は統合をチャンスと捉え、さらなる飛躍を目指してほしい

売上高1300億円に迫る巨大な企業体へと発展した。

トップダウン経営から 企業理念を軸とした組織へ

創業者が社員をけん引して業績を伸ばしてきた1999年までがフェーズ1なら、M&A戦略を推し進めてきた1999年以降はフェーズ2と言えるだろう。2000年代も業績は順調に推移し、高山氏も引き続き陣頭で指揮をとっていた。だが、社会情勢の変化やニーズの多様化などによ

って、経営戦略の見直し、いわばフェーズ3への転換が求められるように。その大きな契機が、2018年の創業者の逝去だった。

「その後を引き継いだ高山芳之現社長が強力な経営者を中心としたトップダウン経営から、企業理念を軸にした組織への生まれ変わりを促進しました。社員それぞれが主体的に考え、課題解決のために積極的に行動できるようマインドセットするのが急務だったのです」と田村氏。

社は「情報社会の明日を創造・建

設」と再定義し、グループ全社員のベクトルをそろえるために企業風土改革の取り組みを開始。フランクリン・コヴィー社の「7つの習慣」を軸とした研修を開催し、まずは経営幹部、部門長、プロジェクトリーダーと段階的に参加している。それらの社員が主体となって勉強会を開催するなど、全社員へのカスケードダウンの動きも活発だ。「こうした活動により、全社員で共通言語を持てたことは、判断のスピード化を図る上でも非常に有



TCSホールディングス
株式会社
事業戦略部長
下山明良氏
Akiyoshi Shimoyama

統合の一番の狙いは
技術力と営業力の底上げです

意義でした」と下山氏は言う。

また同時に、中核事業であるITソリューション事業では、技術力の承継、生産性といった面での課題も浮き彫りになってきた。

「現在の個々の会社規模では大規模プロジェクトの受注が難しく、新しい技術習得の機会も得づらい状況にありました。また、そもそも少子化問題もあって、優秀な人材の確保は年々難しくなっています。この問題をどうにか解消し、今後も成長し続けていくための経営戦略を策定

する必要がありました」と田村氏。

統合で事業もスケールアップ 顧客から期待の声も

こうした流れのなかから生まれてきたのが13社の統合という構想だ。グループの中核であるITソリューション事業に従事する8000人がひとつになることで、スケール感とスピード感を高め、技術力の底上げを目指す。

この統合が発表されると、ステークホ



また、この統合は社員目線で見てもメリットが大きいと語るのは下山氏だ。

「仕事の選択肢が増えることで、社員が活躍できるフィールドが格段に広がります。研修制度の充実や経営のさらなる強化に向けたMBA取得支援なども行っていきます。それぞれの能力を新しい会社で存分に発揮してもらいたいですね」

13社、8000人規模の統合となれば、環境変化に伴う不安を持つ社員もいるだろうが、組織の再編にあたり、十分に配慮すると言うのは田村氏。

「グループ会社それぞれの文化や強みはそのまま生かし、上下左右の人間関係も極力維持したまま社員を再配置する予定です。人的資源を適材適所に配置し、効果を最大化することができれば、他社にはない大きな強みとなるでしょう」

「我が人生にバックギアなし」がモットーで、常に前を見据えて進み続けた高山允伯氏。カリスマ創業者が残したこうした企業DNAはそのままだに、時代に合わせてブラッシュアップされた組織となってTCSグループが生まれ変わる。新社名と新しい企業ロゴの発表は今夏の予定。お披露目が楽しみだ。



TCSホールディングス株式会社
〒103-0023
東京都中央区日本橋本町4-8-14
東京建物第3室町ビル



<https://www.tcs-hd.jp/>